

見えない 「助けて」と 社会福祉実践

社会福祉の個別支援は、個人の尊重を基盤として、人々の困りごとを解決することを目指している。「困っている人」が「助けて」という意思を表明することができれば、それを支援者が「支援が必要な状態」と認識することによって、ひとまず介入の根拠が成立する。社会福祉の実践が大切にしている「本人の意思の尊重」とは、ある意味では、クライアントの意向を尊重する姿勢をとりつつ、実は支援者が求める「助けて」を可視化させることで、介入の根拠を得ようとしているのかもしれない。

しかし、社会福祉の実践には、本人の希望や「助けて」が見えにくいことがある。例えば、「8050問題」などと形容されるような、ひきこもりの状態にある中高年とその親。例えば、「ごみ屋敷」と呼ばれる環境で暮らす人たち。セルフネグレクトと呼ばれる状態にある人たち。彼／彼女たちは、「助けて」といえないのか、それとも、支援者が彼／彼女たちが発する「助けて」をキャッチできていないのか。あるいは、彼／彼女たちは「助けて」という概念をもっていないのか。そもそも、支援が必要かどうかは、誰がどのような基準で判断するのか。

このシンポジウムでは、社会福祉の各領域で支援者が直面しているジレンマの中から、「助けて」を取り巻く様々な側面に目を向け、私たちの支援の拠り所について考えてみたい。

どなたでもご参加いただけます

参加費
無料

どなたでもご参加いただけますが、事前申し込みをお願いします。

●要約筆記あり：手話通訳が必要な場合は3月17日までに下記問合せ先までご連絡ください。

日時

2021年

4月17日(土) 13:00~16:30
(12:30受付開始)

会場

zoomを用いた
オンライン方式

記念
講演

見えない「助けて」と社会福祉

竹端 寛さん
兵庫県立大学准教授

講師プロフィール：1975年生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。山梨学院大学法学部政治行政学学科教授を経て、2018年4月から現職。専門は福祉社会学、社会福祉学。主な著書に、『「当たり前」をひっくり返す』(現代書館)、『権利擁護が支援を変える—セルフアドボカシーから虐待防止まで』(現代書館)、『粹組み外しの旅—「個性化」が変える福祉社会』(青灯社)等。



パネル
ディスカッション

- 【パネリスト】 被虐待児童の支援の現場から 粕田陽子さん(弁護士、薫風法律事務所、子どもサポート弁護団事務局長)
精神保健福祉の現場から 山本綾子さん(三重県津保健所地域保健課)
高齢者領域における家族支援の現場から 竹内伸全さん(株式会社フレーバー介護部長)
- 【コーディネーター】 柴田謙治さん(金城学院大学教授) 【指定討論者】 大谷京子さん(日本福祉大学教授)

申込
方法

右のQRコードまたは下のURLにアクセスし、
申込フォームでお申し込みください。
【申込フォームURL】
<https://forms.gle/d7Wd9DZ9V9kCYH4s7>



問合せ
先

日本社会福祉学会中部地域ブロック部会担当理事
谷口由希子(名古屋市立大学大学院)
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1
E-mail: tyukiko@hum.nagoya-cu.ac.jp

本シンポジウムは、日本社会福祉学会中部地域ブロック部会春の研究例会の一環として開催するものです。午前中には自由研究発表等のプログラムもあり、会員以外の方も参加可能です。詳細は一般社団法人日本社会福祉学会ウェブサイトの中中部地域ブロックのページをご覧ください。

主催 / 日本社会福祉学会中部地域ブロック部会